

◆半紙一行たて書きに臨書して下さい。出品料430円

書譜 孫過庭



- 1、字句 〓 其餘
- 2、形式 〓 半紙タテ使用。中央に「其餘」と臨書し、左余白に落款「〇〇臨」と調和を工夫し書き入れる。
- 3、概観 〓 書譜真蹟は、台北故宮博物院に現存しているが、他に刻本薛氏本や安氏本がある。書譜の重要な点は、一、唐代の数少ない真蹟の一つであること。二、王羲之書法のもっとも忠実な継承作であること。三、その内容が書芸術論の古典的名著であること。
書譜は、三七〇〇余の字数で、しかも、もっとも標準的な草書で、変化縦横でありながら調和美をそなえており、その価値はきわめて高い。また、芸術一般の理論書としてみても、唐代を代表する著作である。
- 4、各字のポイント
 其 一画目は右肩上がり、二画目は右肩下がりと方向を変えて連筆。次画は矢印のように意連。ここでも方向を変える。頭を広く作り、右下に展開する部分ではできるだけ小さくまとめる。
 餘 「其」からの意連綿を受け、筆を突き、筆を引き上げ縦画に、旁の縦画は左下に少し傾き、鋒先で引き上げ△で裏面に、○で表面に。偏と旁の間は広く取る。

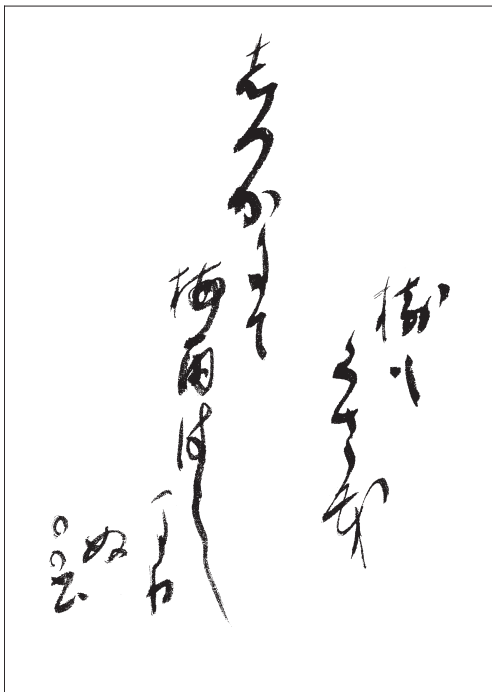
半紙課題(予告) (六月二十二日締切)

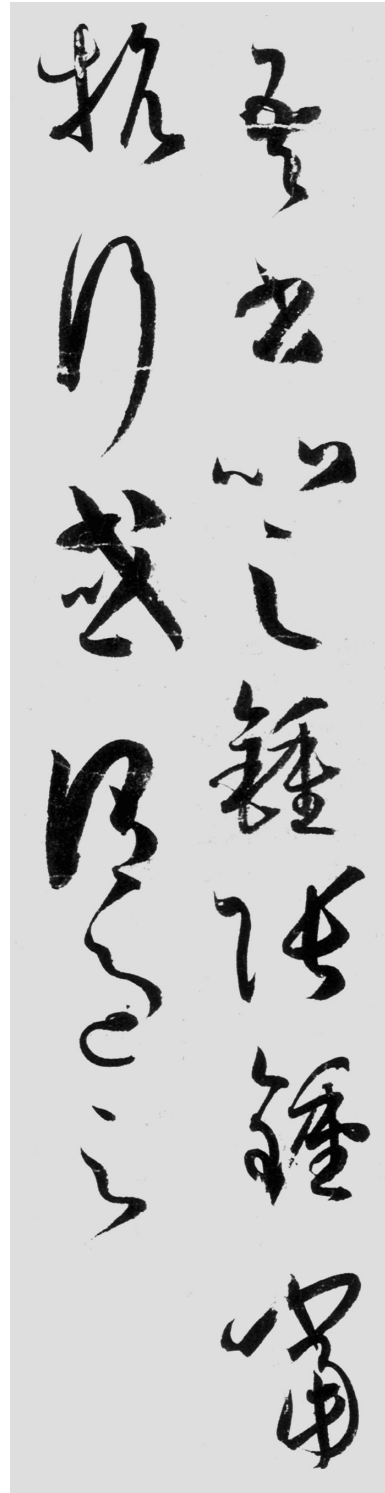


平岡華雪先生書 雨過ぎて土香を生ず(陸游)

訳：六月のころ微雨の過ぎた後のことである。

平岡華雪先生書 樹も草もしづかにて梅雨はじまりぬ(草城)





吾書比之鍾張。鍾當抗行。或謂過之。

吾が書は之を鍾・張に比すれば、鍾には當に抗行すべし。或いは謂えらく之に過ぎん。

私の書は鍾・張と比べると、鍾に対しては対等か、もしくは勝つていようが（張の草書に対しては、やや後れを取っているであろう。）

※随意部参考（半紙・条幅）としてもご利用下さい。抜粋可。

随意部半紙は無料。随意部条幅は一枚目無料、二枚目から五四〇円。

一字書（五月二十二日締切）

課題

聞

- (1) 書体自由
- (2) 半紙タテ ※ヨコは中止
- (3) 落款は余白に調和を工夫し書き入れる
- (4) 出品料 四三〇円
- (5) バーコード券貼付 太枠内の臨昇の隣の空欄に
一字と記入 段級は無記入

注目の人と書

高橋香樹

第二回 副島蒼海（種臣）

今年一月一日付の書道美術新聞に「書道国会議員連盟色紙誌上展」が掲載されていました。ご覧になった方もいるかと思いますが、作品を見て、これが国会議員の方々の書に対する意識、理解なのかと唖然としてしまいました。今回取り上げた副島蒼海をはじめとする明治の元勲の書と比べると暗澹たる思いになりました。

副島蒼海（一八二八〜一九〇五）は名を種臣。四十六歳で征韓論に敗れ下野した後、三十年余を書に、詩に天賦の才を存分に発揮しました。ある著名な書家は、「書の常識でみるなら、これが果して上手なのか、下手なのか、一寸この判定には戸惑いさせられるような質のものが多く、俗眼では仲々理解しにくいくらいがある」と述べているが、そんな上とか下手かという視点では、蒼海の書をとらえることは出来ない。

蒼海の書は、一作一貌とまでいわれる程に、多種多様な作品を残しているが、これは取りも直さず、蒼海の広い視野と自由な精神を物語っている。ここに蒼海の書作態度についての一文がある。「仮に村松という字なら、木偏を書く。木偏の一番初めの一の棒を全心をこめて出来るだけ遅く、これより遅く書けない位遅く書く。今度は、縦の棒を同じく気をこめて出来るだけ遅く書く。あとはそれに準じてやる。そうして修業を積んで居れば曲っても筋の通った書が出来る」このようにして、気力の充実した、深く厚みのある線をつくりだした。また、蒼海は古典に対する造詣も深く、広範囲に渡って学んでいる。なかでも、明治維新という時代も反映してか、革新的な人の書に関心をしめし、張旭・顔真卿・懷素・蘇東坡・黄庭堅等勁くて法にとられない独創的かつ斬新な書を

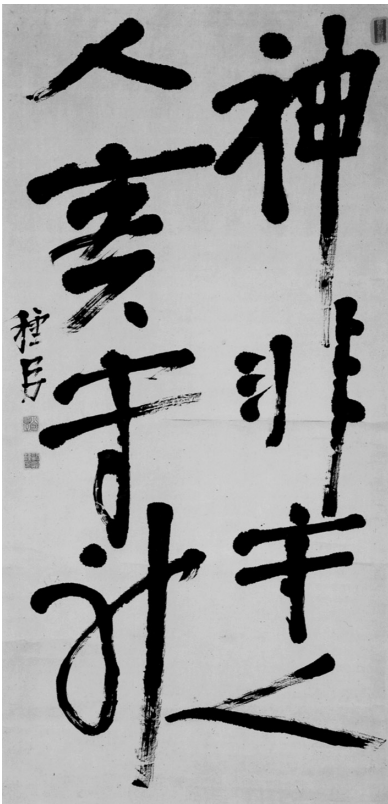
好んだようである。

「飛龍在天」は、元総理大臣の故池田勇人氏の蔵になるもので、「墨美第一四〇号副島蒼海」、二玄社刊「蒼海作品集」で見つ、是非とも美物を見たいものと思っていたところ、昭和四十七年十月佐賀県立美術館で「蒼海 梧竹展」が開催された折、鑑賞する幸運に恵まれた。この作の雄大豪放な書には心を奪われその場を離れることが出来なかった。「龍」は、どのような筆順で書かれたのか見当もつかず、「在」の厚みのある線、「天」の左払いの不思議さ、右払いの力強く大胆な撥ね上げ等忘れ

ることの出来ない作品である。

「神非守人 人実守神」は、洋画家有島生馬所蔵の作。有島は、「私が見た蒼海の中では代表的な一つである。神品と思っている。」と述べ、この書を見た谷川徹三も「雄渾にして蒼古たるこの書はいたく私を驚かせた。」と書いている。この作は、明治十年頃の作といわれているが、運筆は稍速筆か。

「積翠堂」紙面に隙間なく詰め込まれた文字、「堂」の上部に大きな余白。題字と一体化した大きな「種臣」の落款。桁外れた構想力に圧倒される。書体は篆隸楷行が混在して



神非守人 人実守神

種臣

いるように感じられるが、運筆は一貫している。

「野富烟霞色天縦花柳春」二字づつ組み合わせ配している。細線を多用しているが、各字に見られる笹の葉のような筆画は見たことがない。このような意味絵画的とも思え

る表現は、基本は篆書と思われるが他に例を見ない。

「帰雲飛雨」雨・雨冠の筆をグルグル回す運筆には驚かされた。以前、これに刺激され私も試みたことがある。この作を見ると、内回りよりも外回りの方が勢いを感じる。「帰」

も回転筆を用いているが、「飛」は稍苦勞した感あるか。

今回色々調べている中で大作の為掲載できなかったが、代表作「登金陵鳳凰臺屏風」が三点ありました。内一点は昭和六十年に見た佐賀県立美術館蔵。もう一点は琵琶湖文化館

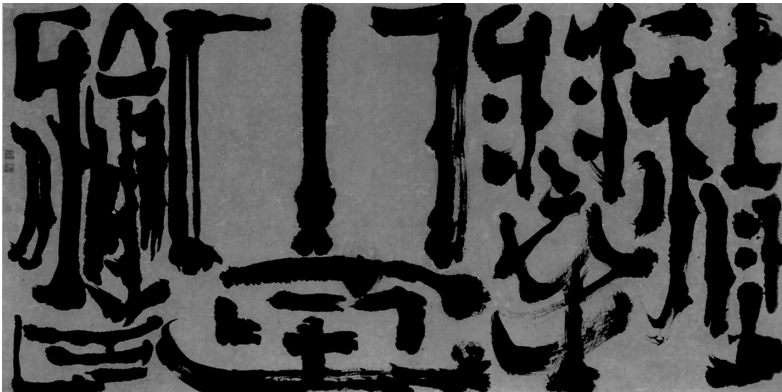
蔵。この二点は壬辰の干支が書かれており、一紙二行の六曲屏風。三点めは新潟市の桜井定市氏宅で拝見したもので、これには甲午の干支があり一紙一行十二曲屏風です。この三点は、書体、構成が同じで、入念に計算しつくされ草稿が作られていた

ことが窺われる。

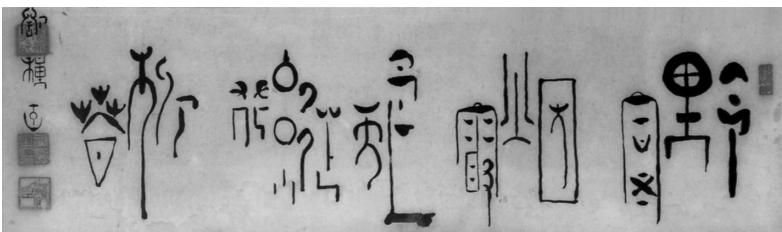
この他にも紹介したい書が数多くあるのだが、スペースが限られているので次回に回したい。蒼海の作品集を開いてみると、今まで見たことのないような書を見つけることが出来る。上手下手といった技術のみでは推し量ることの出来ない書が、ここにある。



飛龍在天
副島種臣



積翠堂
種臣



野富烟霞天縦花柳春
劉種臣



飛雲滄海
滄海老人種臣

A

高橋香樹会長書

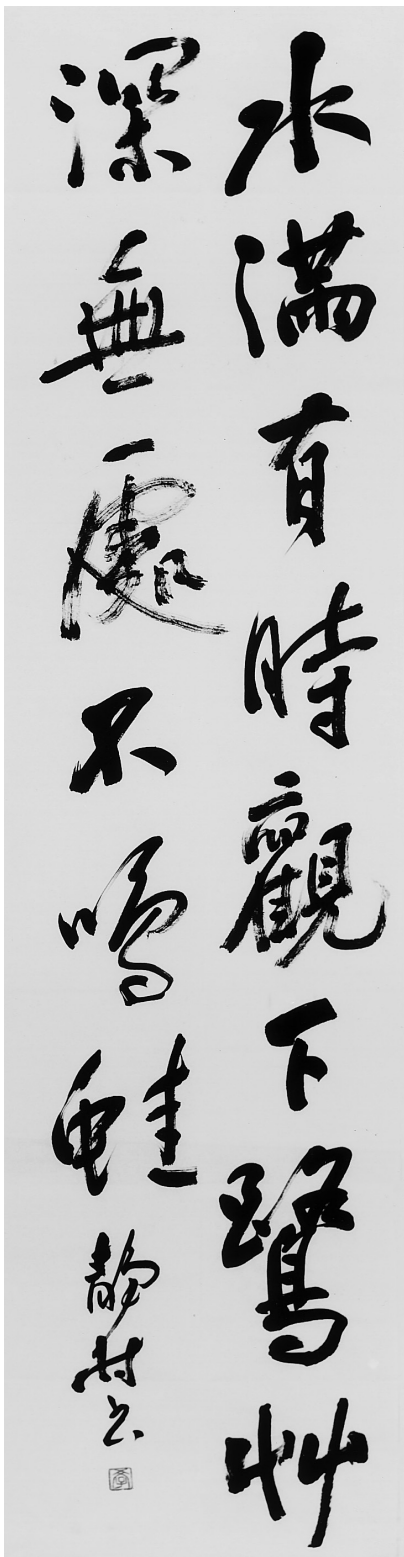
水満有時觀下鷺
草深無處不鳴蛙 (陸游)
水満ちて時に鷺の下のるを觀るあり、草深うして處として蛙の鳴かざるなし。



B

鈴木静村先生書

随分前に木簡の実物を見たことがある。思いの外小さなものだったが、あまりにもサラッと書かれているので驚き、以後書けなくなった。それまでまるで違うものを書いていたように思えたからだが、ここにきてまた、木簡を書きたくなくなった。力まずに気楽に書いてみたいと思う。満・無・蛙はこの形が木簡にあります。



画の付け離し 一字の構成の中で、一か所・一部分でよい「離し」の手法を導入することです。最も一般的なもの、有の「月」二画目、觀の「見」二画目、鷺の二画目等の離しです。離すことにより、空気が通い、硬さが解れ、全体柔な気分が漂います。水 二画目を一画縦画から離す。深 旁二画目、處 四画目離し。不 三画目の接筆は不可、蛙 旁の末画は離すと明るくなる。
訳：水かさが増えると、ときどき鷺が舞い降り、草が茂ってあちこちで蛙が鳴く。

予告 (六月二十二日締切)

桃花暮雨煙中閣

燕子春風月下樓 (毛氏)

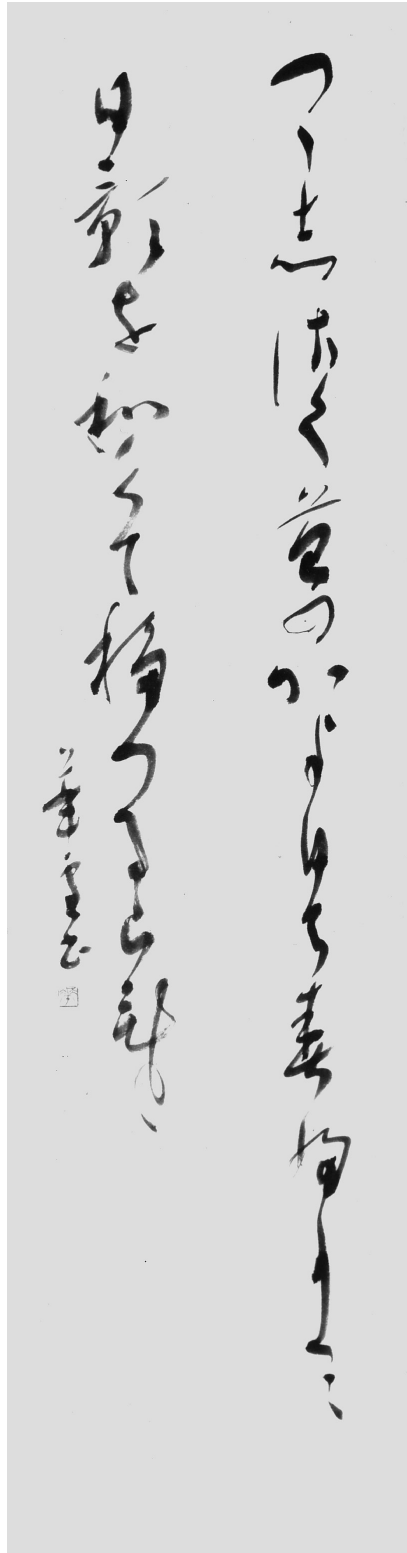
◆注意

- ・条幅部の出品は一人一点 (バーコード券の条漢を○で囲み(1)と記入する。)
- ・二枚目からの出品 (バーコード券の条漢を○で囲み()に何枚目か数字を記入する。出品料540円)

A

平岡華雪先生書

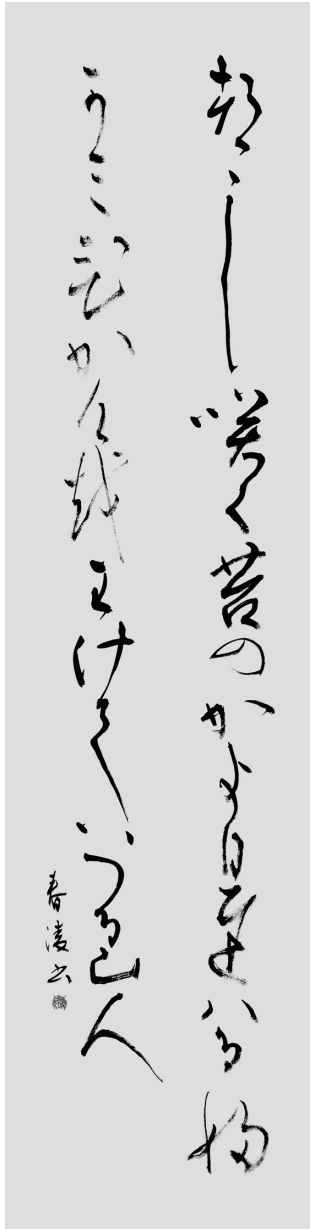
つっじ咲く苔のかよひち春深み日影をわけていづる山びと (藤原定家)
つ、志し佐さ久く苔ののかよひち春は深み日ひ影をわけていづる山の飛びと



B

武井春凌先生書

都、し咲く苔のかよひち春深み日影をわけていづる山びと



学び方

二行書きにしてみました。中央を広くとり余白の美しさを意識して、書き出しの「都、し」は伸びやかに筆を運び、徐々に渴筆としながら二行目の「王」で墨を入れポイントにします。隣の行との響き合い、上下の文字との字幅や墨色の変化を考慮しながら、更に運筆の遅速に留意して書いて下さい。

予告 (六月二十二日締切) あふちさくそともの木かけ露を (お) ちて五月雨はる、風わたるなり (新古今和歌集)

藤原定家

(一一六二〜一二四二)
藤原俊成の子。平安時代の終わりから鎌倉時代のはじめにかけての歌人で、「新古今和歌集」や「百人一首」の撰者。十四歳で高倉天皇に仕え、正二位権中納言と高い官職にまですすむ。「有心体」とよばれる定家の歌風は、中世の歌壇をリードした。日記に「明月記」がある。

- ◆注意
- ・条幅部の出品は一人一点 (バーコード券の条かを○で囲み(1)と記入する。)
 - ・二枚目からの出品 (バーコード券の条かを○で囲み()に何枚目か数字を記入する。出品料540円)

石田 愁 華 先 生 書

玉燭星雲三殿曉 珠杓雨露九天春（趙甌北）
 玉燭星雲三殿の 曉、珠杓雨露九天の春。

玉燭星雲三殿曉
 珠杓雨露九天春

訳：四時の気候を調和する星雲は三殿の夜明けにあり、北斗の第五より第七に至る星の露は満空の春をなしている。

宮 絢 子 先 生 書

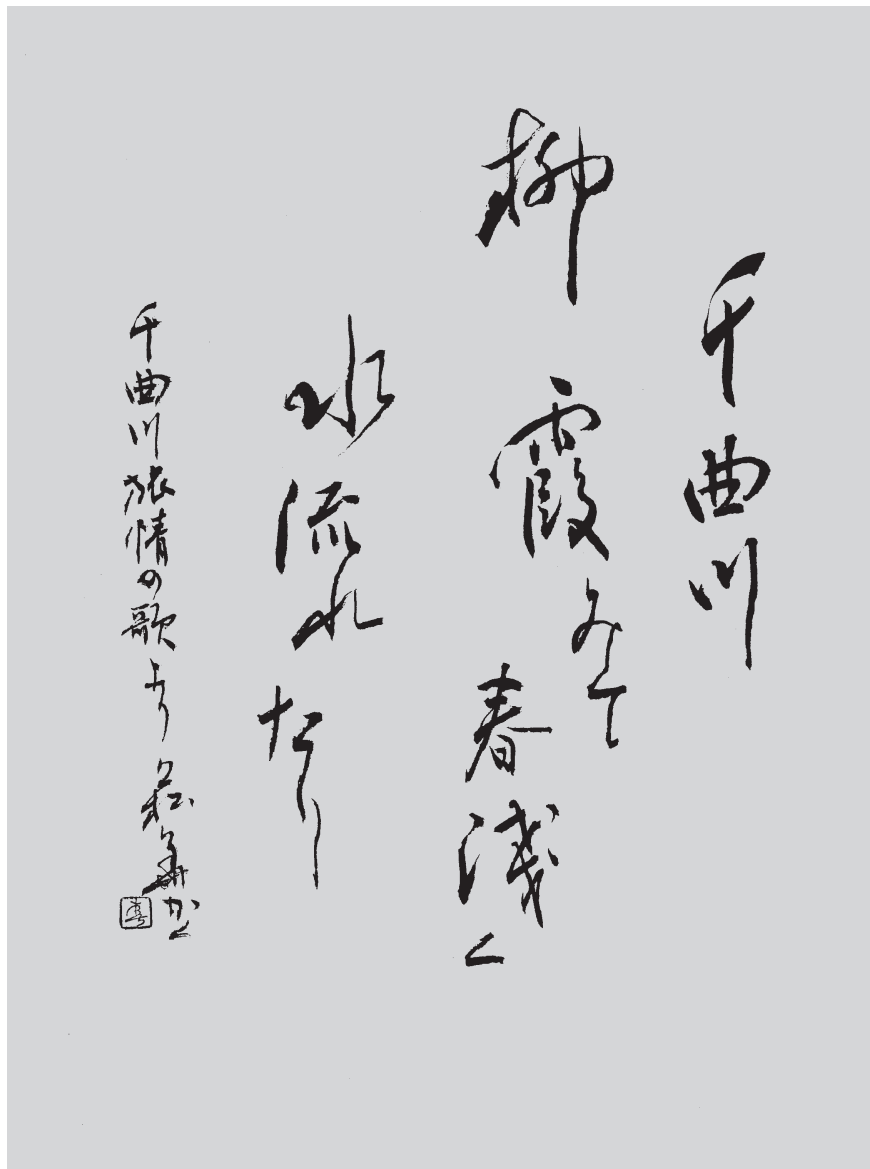
山を見るわれと鋤ふる少年とつなぎて春の新しき土（寺山修司）
 山を見るわれと鋤ふる少年とつなぎて春の新しき土

山を見るわれと鋤ふる少年と
 つなぎて春の新しき土

- ◆注 意
- ・条幅部の出品は一人一点（バーコード券の条随を○で囲み（1）と記入する。）
 - ・二枚目からの出品（バーコード券の条随を○で囲み（ ）に何枚目か数字を記入する。出品料540円）

小暮 菘華 先生 書

鈴木静村先生が創設、担当されましたこの分野を今月から担当者ごとに学ぶことになりました。各位の情感や心の動きを引き出し、表現力や制作力が身につくようにアプローチしていきます。始めに、「ことば」選びでは、生存及び没後五十年未満の作家は著作権がからむため避けています。文字は「漢字」は草書を、「かな」は変体かな・連綿(自然な二、三字程度は可)を避けます。では、心に残る「ことば」を可読かつ芸術性ある表現にするために、今回は文字の大小と行の流れについて学びます。



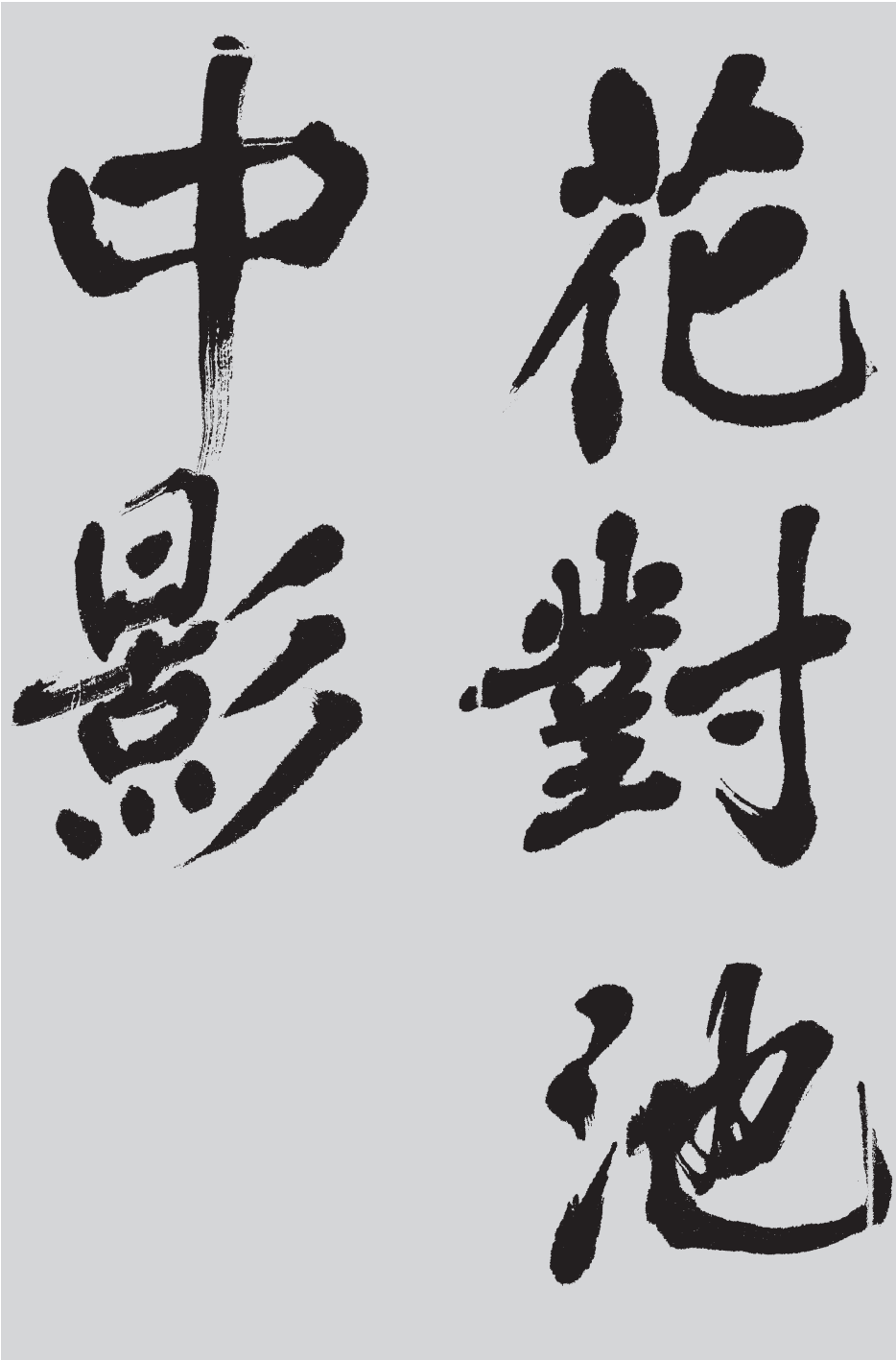
島崎藤村の詩の一部ですが、早春の景色を想い浮かべながら自分の思いを素直に表現しましょう。「柳・霞・水」を大きく書き、「柳」と「霞」の間を少し空けて風通しをよくし、明るく印象に残るよう心がけます。行の流れは色々試して一字ごとに表情を工夫し、表現の変化を学んで下さい。

千曲川
柳霞みて春浅く
水流れたり

千曲川旅情の
歌より
(島崎藤村)

◆注意…はじめて出品される方は私製の紙(3×4cm位)に次の4項目を記入して作品左下隅に貼って出品して下さい。出品料540円。

- ①バーコード券右空欄に漢かと記入 ②支部名または都道府県名 ③氏名または雅号 ④新



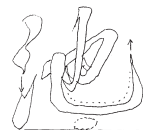
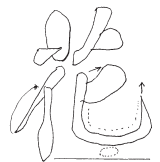
平岡華雪先生書

花は対す池中の影(王維)

訳：花は池に影をうつし、(松は風に声を発している。)

〈主な文字のポイント〉

「花・池」の浮鷺×印になるぬよう、矢印の向きにはね出す。余白が豊かになる。「對・影」の旁がそれぞれ字の主要部分。「中」末画がこの字の生命線、この作としても中心画―。

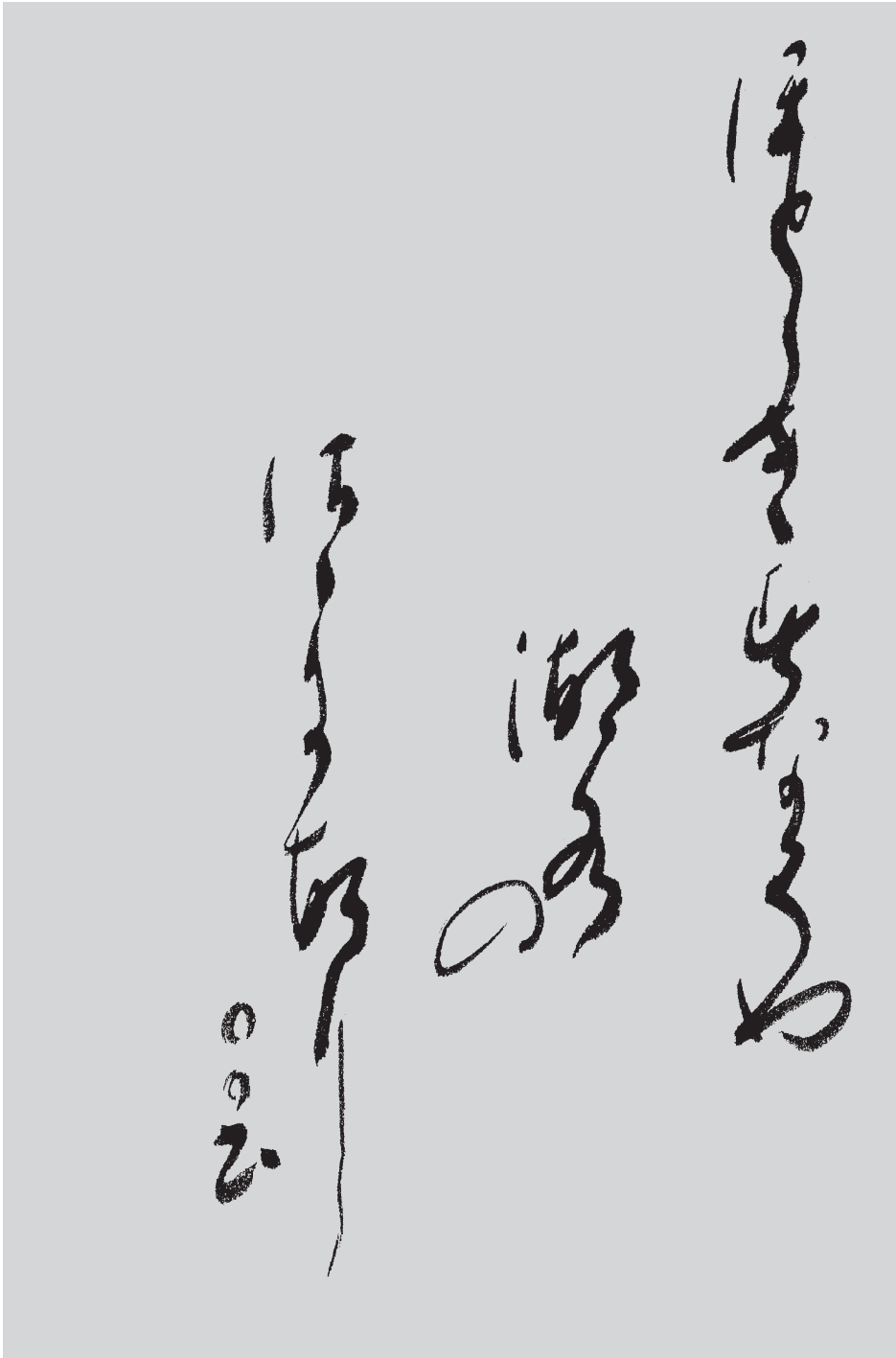


◆注意…はじめて出品される方は私製の紙(3×4 cm位)に次の4項目を記入して作品左下隅に貼って出品して下さい。会員は無料、会員外出品料は430円。

①漢字部 ②支部名または都道府県名 ③氏名または雅号 ④新会員は無料。

平岡華雪先生書

ほととぎす鳴くや湖水のささにごり (丈草)
 ほと、き春^すな久^くや湖水の佐^さ、尔^に故^こり



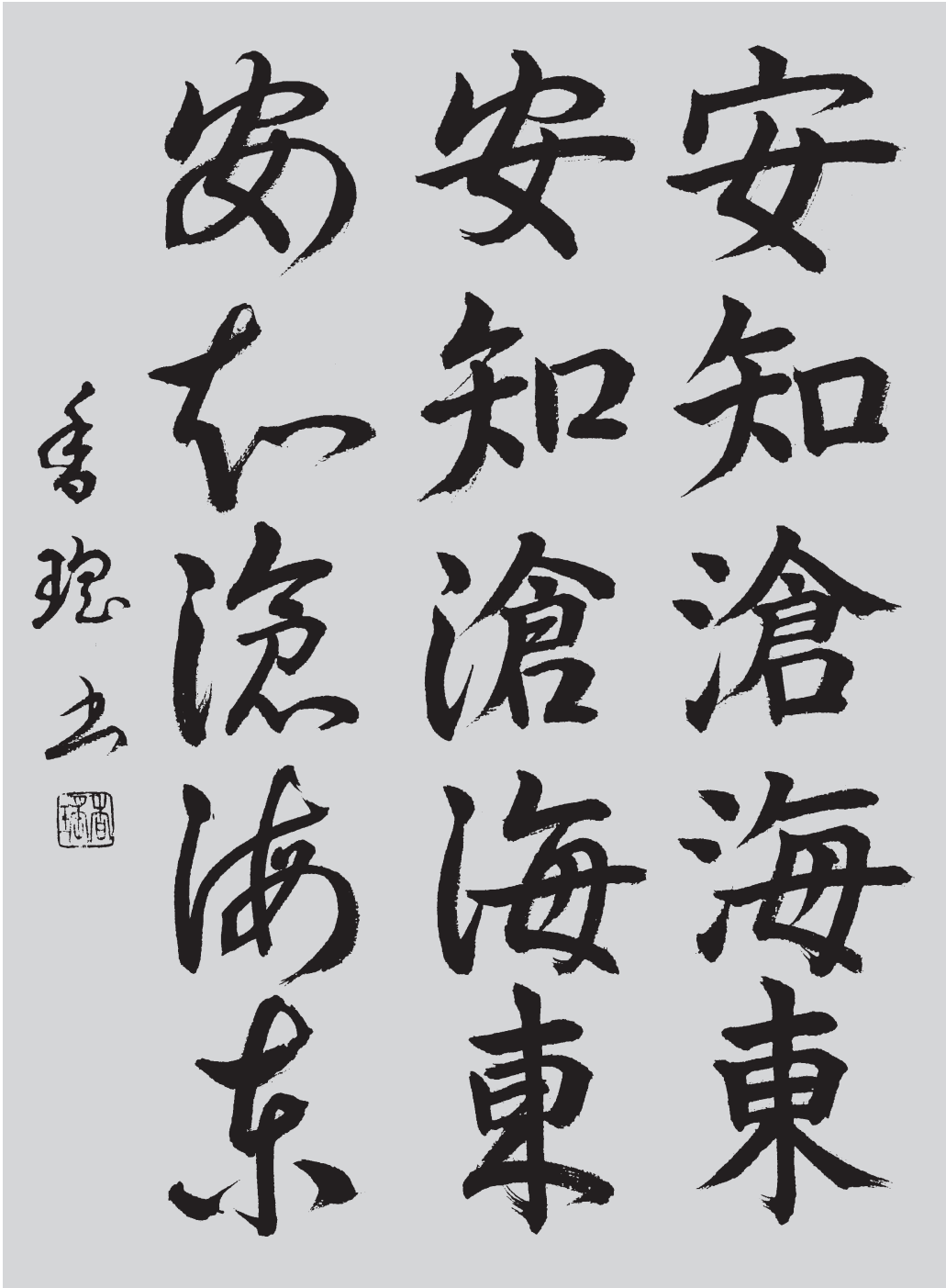
〈用字を替えないで挑戦を—〉
 下五の「佐々尔故り」は、華雪先生独特の変体かなを主調とした連綿手法。初
 歩段階には、少々抵抗かと思えます。しかし思い切って挑戦、繰り返し続け
 りズム」を会得することです。特に書き進め、末「り」の長縦画がスッキリと
 決められたときは一つの自信!!

◆注意…はじめて出品される方は私製の紙(3×4 cm位)に次の4項目を記入して作品左下隅に貼って出品して下さい。会員は無料、会員外出品料は430円。

- ①かな部 ②支部名または都道府県名 ③氏名または雅号 ④新会員は無料。

内藤香瑠先生書

安知滄海東（王維）
安んぞ滄海の東を知らんや。



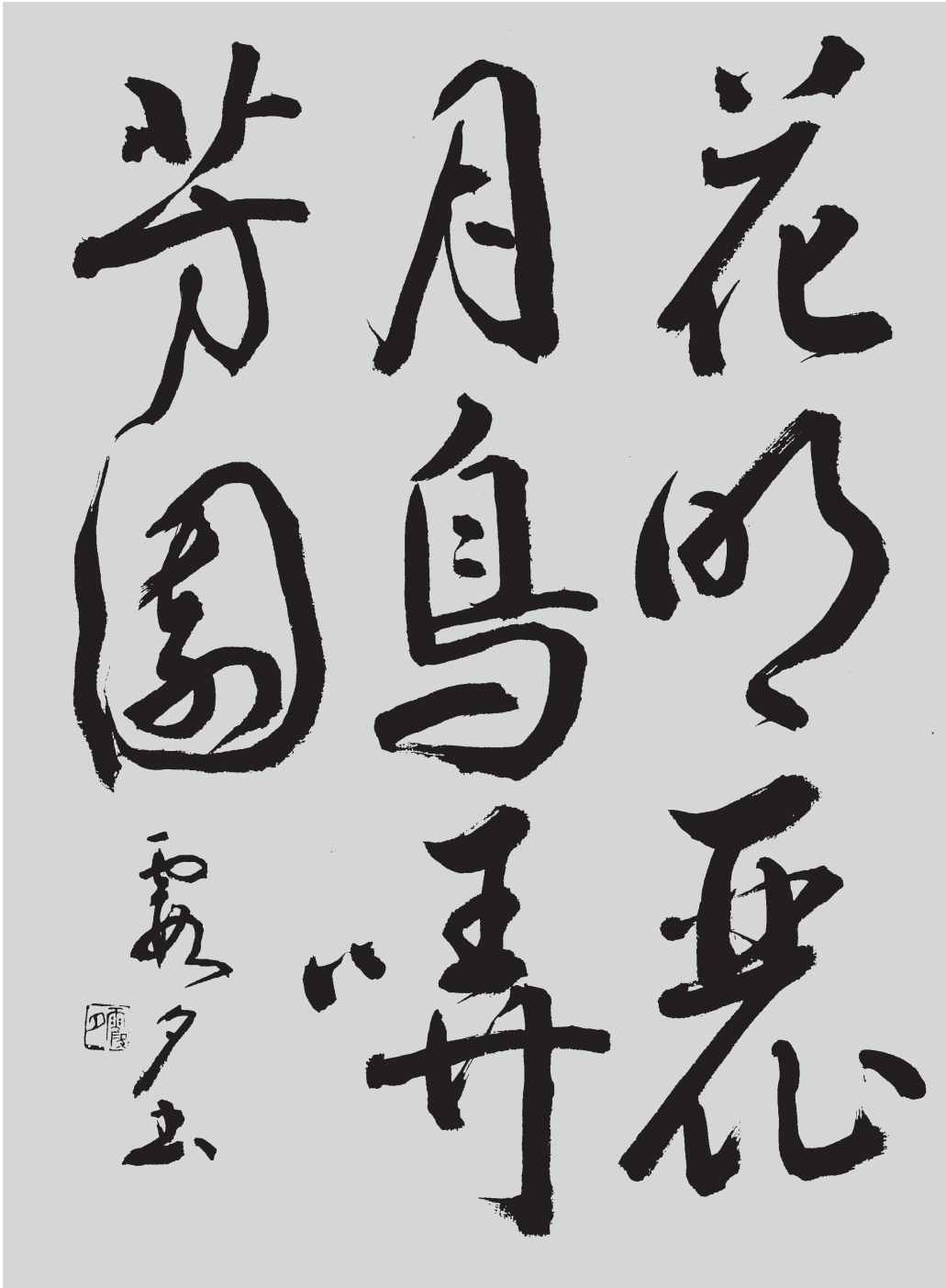
訳：大海の東の日本のことをどうして知ることができよう。

1. 随意部参考として出品してください。 2. 会員外の出品料は430円。

随 意 部 参 考

外川霞夕先生書

花明麗月 鳥啼芳園（蕭統）
花は麗月に明らか、鳥は芳園に啼る。

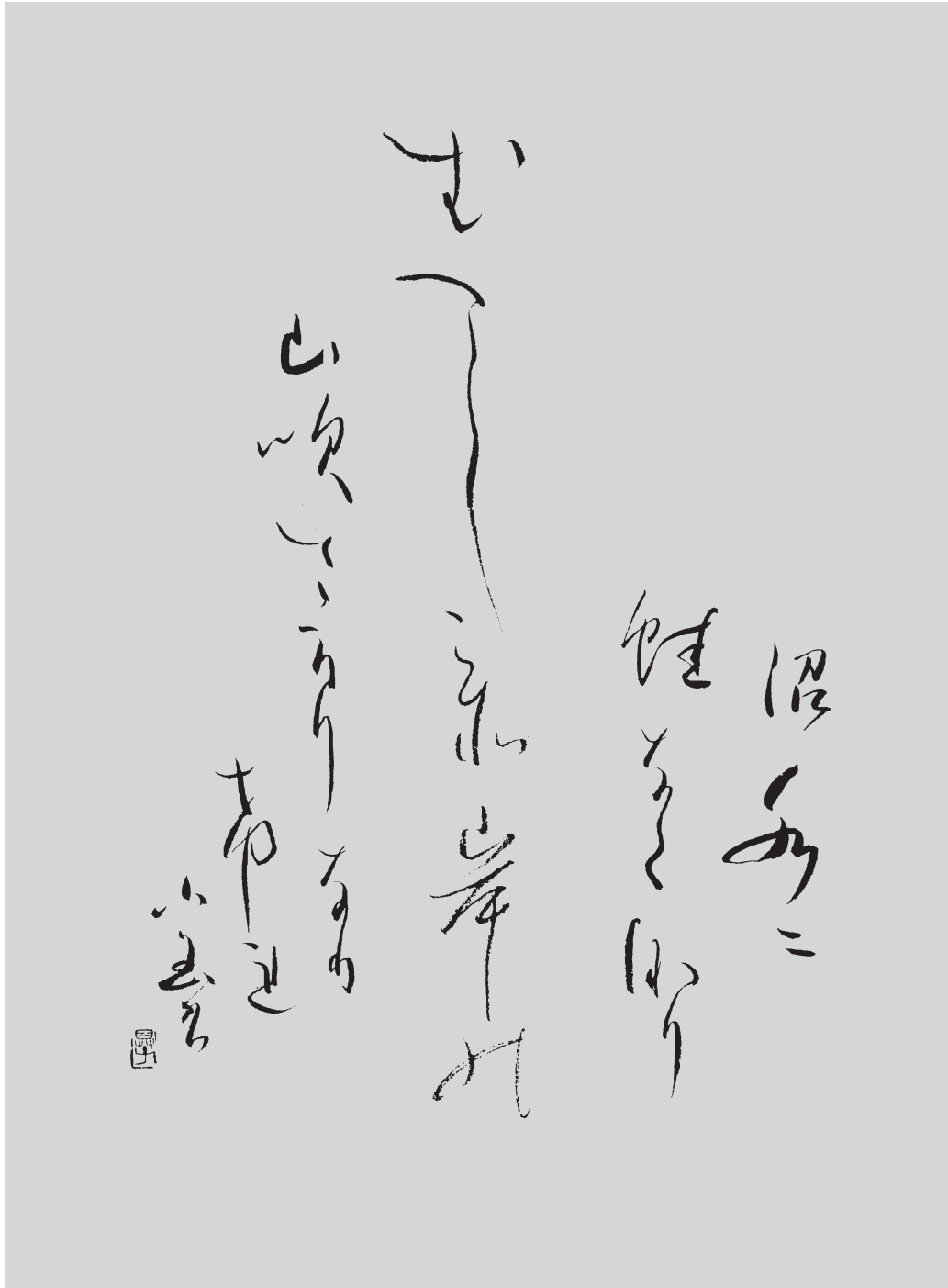


訳：花は美しい月のために明かに、鳥は花さく園に鳴いている。

1. 随意部参考として出品してください。
2. 会員外の出品料は430円

随 意 部 参 考

高山小玉先生書



沼水ぬまみづにかはづなくなりむべしこそ岸きしの山吹やまぶきさかりなりけれ (後拾遺和歌集 藤原高遠)
沼水二蛙にかはづな久那くなりむへしこそ岸能山吹きしさかり奈利希連なりけれ

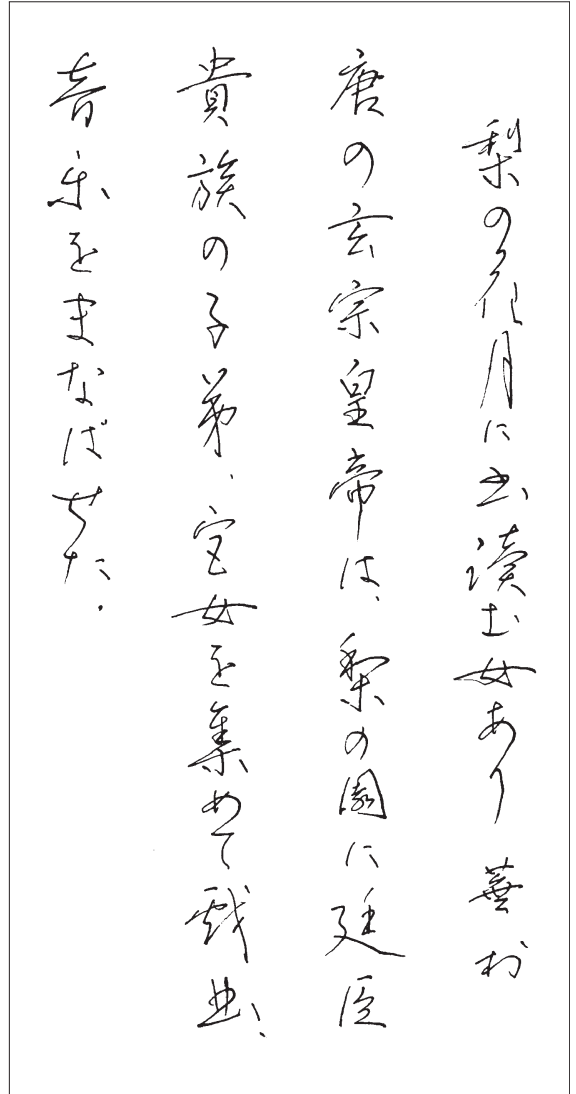
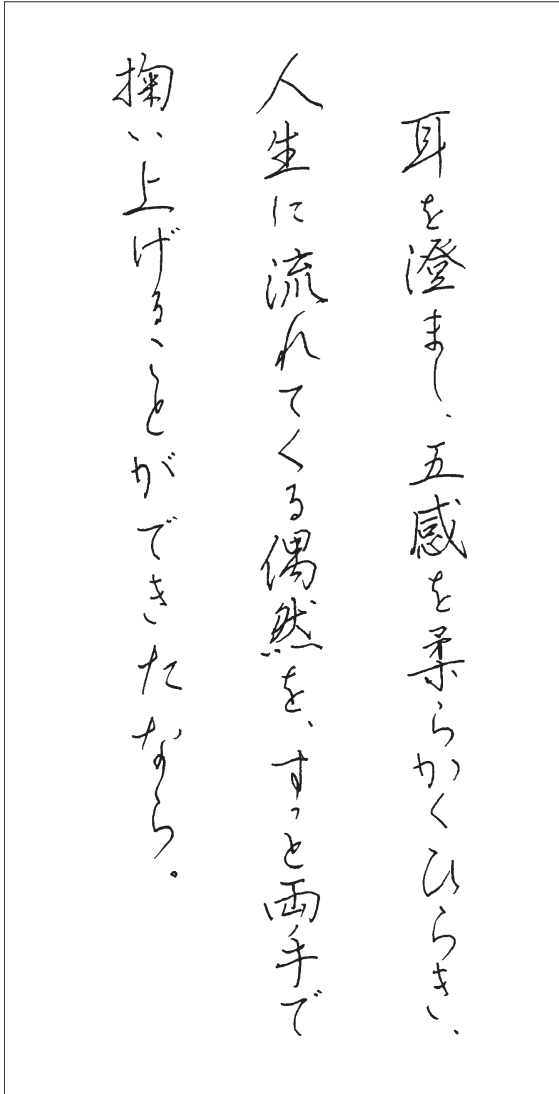
1. 随意部参考として出品してください。
2. 会員外の出品料は430円

川上香蓉先生書

石原春香先生書

課題2 (初段階以下)

課題1 (初段階以上)



正教授 創作部門 (自運作品、自由形式、硬筆用紙使用) で出品。二名の審査員による合計点数で優秀作品掲載。審査料一、〇〇〇円

課題1 (初段階以上)

梨の花月に書読む女あり 蕪村
唐の玄宗皇帝は、梨の園に廷臣貴族の子弟、宮女を集めて戯曲、音楽をまなばせた。
「花ごよみ」 杉本秀太郎

◆注意

- (1) 自分の段級に合った課題を選択。
- (2) ペンまたはボールペン (黒色) を使用のこと。青インクは不可。
- (3) 段級欄は本人が記入 (色は黒) はじめて出品される方は私製の紙 (3×4 cm位に) 次の4項目を記入して作品左下隅に貼って出品して下さい。①硬筆部②支部名または都道府県名③氏名または雅号④新
- (5) 会員は無料・会員外は四三〇円
- (6) 昇試規定は裏表紙を参照の事。

課題2 (初段階以下)

耳を澄まし、五感を柔らかくひろき、人生に流れてくる偶然を、ずっと両手で掬い上げることができたから。

「そら いろいろ」 小澤征良